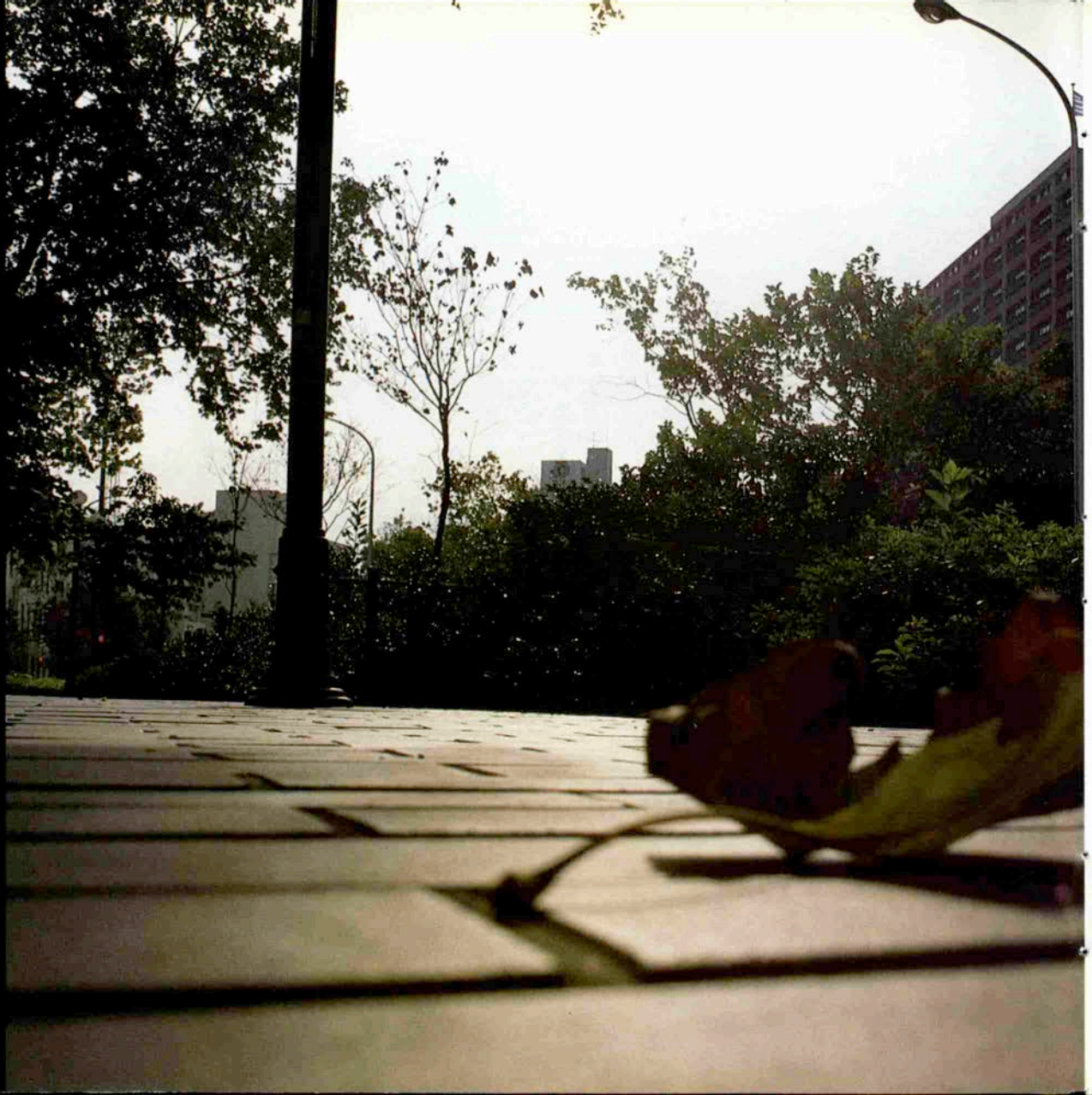
神戸新景

No.
21

P・小山　保



山手 県庁前

ファーストクラスのくつろぎです。

いつまでも飽きられないものがあります。いつまでも傍に置きたいものがあります。それは流行を超えた、クラシックなインテリア。10年も、20年もの間、人々がいとおしみ使っている家具。木の色あいは時を経ていっそう艶を増し、やさしさを深めていくのですね。長い長い年月を生きてきた家具だからこそ、これからも、もっと大切にしていきたい。クラシックなものには、こんな風に人をひきつける何かが潜んでいるのです。ときには流麗なラフォルムのチェアに目を奪われ、アール・ヌーボーを意識したランプに時代の美しさを感じ、ロココ調のカップの繊細な絵柄に魅せられる。

●ダイニングテーブル……150,000円
（幅185×奥行95×高さ72cm）
●ダイニングチェア……各72,000円
（幅50×奥行55×高さ89cm）
●ダイニングアームチェア……各80,000円
（幅60×奥行60×高さ90cm）
5階リビングメッセージ
●ウェッジウッド/ディナープレート各82,000円
5階ワールドプレステージ

●マイセンオーナメント 1,400,000円
5階ワールドプレステージ

表示価格の3%を消費税として別途頂だいいたします。

DAIMARU KOBE
電話(078)331-8121〈水曜定休〉

1～4階・地1階は7時まで営業
5階～屋上・地2階は6時30分まで営業

CLASSIC STYLE

10月24日㈫まで　5階リビングフロア

人々が時代の流れの中で、伝え、語り継いできたもの。そのひとつひとつに、歴史のひとこまを垣間見るような気がします。舞踏会に興じ、芸術論に花を咲かせた、古き良き時代のヨーロッパの香り。贅を極めたこのクラシックスタイルをとり入れると、かえっていまの生活が新しく感じられるのですね。国によって、スタイルはさまざまだけれど、人を優雅な気分にさせてくれる、その魅力は、どれも同じ。枯葉の舞い散る音を聞きながら、クラシックなものに抱かれて過ごすやすらぎの時間を、さあ、この秋にこそ。昼下がりのアフタヌーン・ティーのひとときも。ワルツの音楽とともに流れる、秋の夜長も。いつものインテリアがやさしく包んでくれるはず。

●ランプ 90,000円
（高さ約80㎝）
5階デコプラザ

●アームチェア 231,000円
（幅58×奥行53×高さ106㎝）
5階リビングメッセージ

こんなに、神戸です。

フェスピック神戸大会盛大に開催

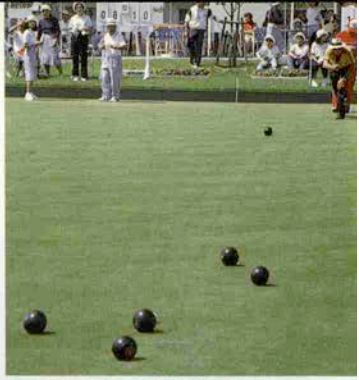
初秋の神戸で世界の友情の輪が広がる

皇太子殿下も選手たちの活躍に声援を(上左)。ユニバー記念競技場で会期中燃え続けた聖火(上右)。フェンシング、アーチェリーはしあわせの村で競技が行なわれた。

アジア、オセアニア41ヶ国1650人の選手、役員が参加

「ひろげよう　笑顔　ふれあい　明日への希望」をスローガンに、フェスピック神戸大会（第五回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会）が九月十五日から始まり、二十日までの六日間市内六会場で十三競技に熱戦が繰り広げられた。今大会はアジア・オセアニアの四十一ヵ国・地域から千六百五十人の選手、役員が参加、フェスピック史上最大の規模のものとなった。

十六日。会場の一つである北区の「しあわせの村」を訪れた。朝から快晴で屋外は汗が吹き出る程暑い。午前九時からフェンシング、射撃、車イステニス、アーチェリー、サッカー、ローンボウルスを順番に観戦した。どの競技にも市内の小学生や中学生がたくさんつめかけていた。子どもたちにとっては車イスの障害者たちが競技をしているのを見るのは初めてだったろうし、手の不自由な人たちがサッカーでグランドを走り回るの



車いすマラソンは東西に長い神戸の市街を利用した変化に富んだ42.195キロ(左)。射撃、ローンボウルス、テニス、サッカー。どの競技も参加する選手たちは「晴れの舞台にやりがい」と力いっぱいの熱戦がくりひろげられた。　(しあわせの村で)

を見るのも初めてのことだろう。外国の車イスの選手の周りには子どもたちの輪ができていた。日本語と身振り手振りでサインを頼み、にぎやかな笑いや歓声が湧いていた。民族や障害の壁を越えるのは大人より子どもたちの方が早い。

ローンボウルスを観戦していると、ちょうど皇太子殿下が来られた。

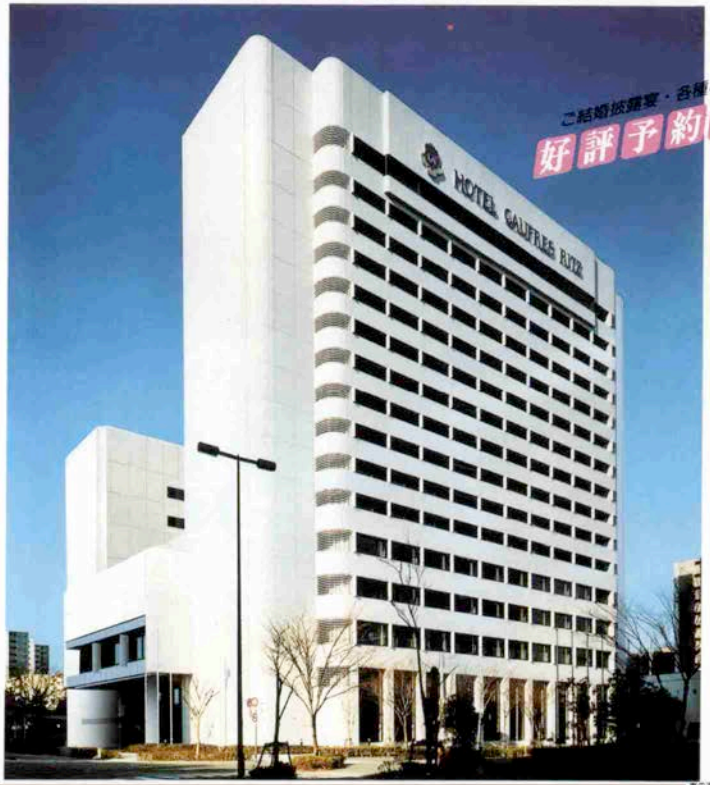
しばらく観戦した後、選手に話しかけられ、自らボウルを握って標的球に向って投げられた。三度めに的に当りそうになると、ワァーという歓声が周りから上った。

どの競技にも、目立たないけれども数多くの裏方さんがいた。特にこのような大会では選手を直接介助するボランティアを始め、通訳や、耳の不自由な人たちのために競技内容を説明する手話通訳など、さまざまなボランティアが欠かせない。今回参加したボランティアは約三千人だが、その何倍もの市民が準備に関わってきた。フェスピックの意義は記録よりも障害者をはじめすべての市民が「ともに生きる」という理念を広げるために行われるものである。神戸大会が、市民福祉都市をめざす神戸市にとってその実現への大きなステップとなってほしい。

〈家庭養護促進協会 事務局長　橋本　明〉

■しあわせの村
神戸市北区山田町下谷上字中一里山
TEL（078）743・8181
宿泊・会議室予約専用 743・8000

ヨーロッパの豊かな歴史と伝統を継承した高級ホテル



ご結婚披露宴・各種ご宴会・ご宿泊

好評予約承り中

日本人の心の味を集めました。

グルメ街

- コーヒー&レストラン「ディアナ」
- 鉄板焼「元町 扇」
- とんかつ「三宮とんかつ武蔵」
- 中国料理「嵐山 主水」
- 懐石料理「東京 田村」

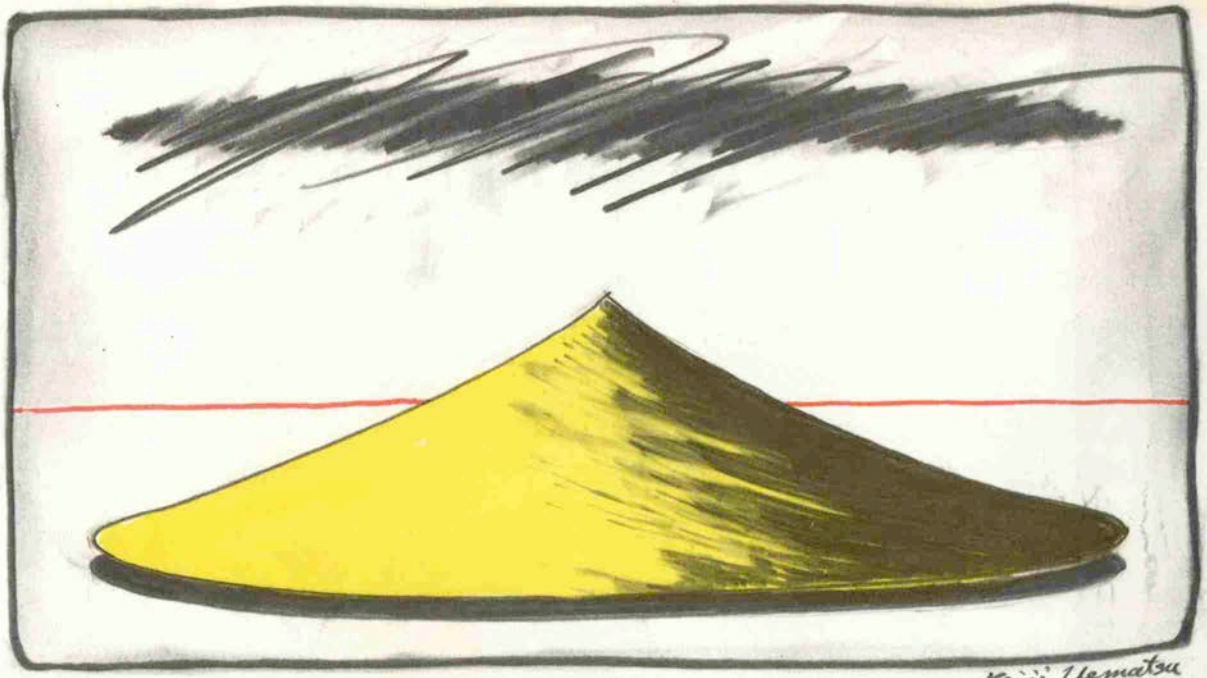
ホテルゴーフルリッツ

神戸 風月堂 港島

ご予約
お問い合わせ

☎(078)303-5555
ミナサン ゴーフル

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目1番



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

10月号目次 ● 1989・No.342

表紙／（故）小磯良平 9
セカンドカバー／西村功 12
神戸っ子89／福井愛美・山本英二 15
ある集い／神戸混声合唱団・日本児童文芸家協会関西支部 16
神戸スナップ／フェスピック神戸大会から 18
美の小箱／中西圭子／文・赤根和生 29
神戸新景／カメラ・小山保 31
私の意見／石井一 34
随想三題／菊池由紘・山崎進・三浦真巌 36
地域文化論／水谷頴介 38
連載エッセイ／田中千佳 40
美術夜話／川西祐三郎 42
経済ポケットジャーナル 新井満 48
特集①WFF－IN神戸／ファッション対談／大内順子 浜野安宏 54
特集②WFF－IN神戸によせて／奥村彪生 60
WFFガイドI／神戸ファッションタウン・グルメディア神戸 62
WFFガイドII／大阪・京都 68
キャンペーン座談会 神戸市議会。出席者 豊村敏治 尾崎敏江 吉田多喜男 前島浩一 長嶋登 藤森万也 70
珈琲飲みながら／柏井健一 74
タカラヅカ対談／植田紳爾・一路真輝・涼風真世 76
ネオ・モーダメルヘン／篠原順子 84
ファッションスポット 108
神戸のお嬢さん／松尾梨二子・鴻上昌子 117
兵庫ウォーク・ふれあいの祭典／高橋孟 120
コーヒーブレイク 124
動物園飼育日記(286)・ゾウの動物園史(2)／亀井一成 126
ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田淳 128
神戸を福祉の街に(190)／橋本明 134
対談ブラジル・神戸／若林和男／津高和一／森本泰好 135
神戸の集いから 136
KFSニュース 138
出会いの旅／嘉納洋二 140
有馬歳時記／湯けむり対談・中野俊男・風早和喜・吉田隆司
丹波増澄・北浜良佳・幸田愛・杉山泰子
神戸百店会だより
猫じゃらし／佐藤晴美 142
モダンカルチャー 144
シネマ試写室／淀川長治 146
ぴっといん 148
ポケットジャーナル 150
神戸っ子倶楽部会員情報 153
るぽるたーじゅ神戸／「ファッションタウン街開き」文・有井基 154
小説／インディアナの長い夜／弓透子 絵・田中美穂 158
ポエム&コラージュ／金目昭子 180
海・船・港／大阪湾の水先案内人パイロット達の活躍 182
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志
目次カット／植松奎二

魅惑の聖夜へ
エスコート。

Portopia Christmas

'89ポートピア クリスマス

12/18 MON.
サロン・ド・ポートピア
ディナーコンサート
お1人さま¥12,000　7:00p.m.より
出演 金 昌国(フルート)他

12/23 SAT.
細川たかしディナーショー
お1人さま¥30,000
1部4:30p.m.より　2部7:30p.m.より

12/24 SUN.
大地真央ディナーショー
お1人さま¥30,000
1部4:30p.m.より　2部7:30p.m.より

12/24 SUN.
お子さまクリスマス
お1人さま¥9,000　11:00a.m.より
ぬいぐるみ人形劇「オズの魔法使い」他

12/25 MON.
ダンスパーティ
お1人さま¥18,000　6:30p.m.より
演奏 ノーチェ・クバーナ他

※いずれもサービス料・税金共

チケットのお求めは…
ポートピアホテル/さんちかプレイガイド/
大丸PITスクエア/阪急プレイガイド
[三番街・ヘルソナ・西宮北口]/
チケットセゾン/チケットぴあ

ご予約・お問い合わせは
ポートピア クリスマス係まで
Tel.(078)302-1111

ポートピアホテル
〒650 神戸市中央区港島中町8丁目10番地1

Autumn Collection

メリーヒル
ゲルラン
ボンフカヤ
シス
ルーブル・
ブライダルサロン
ダイアナ
オフ
クロードレマ
タカノ
ココ山岡
三愛

キャンディッド・マス
メイソングレー
フォーセット
ペネトン
ラッキーズ
ハニーハウス
イーストボーイ
靴下屋
フェアリー
ザンパ
リップスター
ペイトンプレイス
ヴィフ
バルチザン
クレヨン
マリークワント

アラブグレッツ
トゥエンティワン
ミシュー・エタム
Aug
リーフノット
アトモスフェール
ヴィッキー
カポ
キャトルセゾン
ハウスオブローゼ
花王ソフィーナ
ワコール
トリンプ
ラパプル
ミセラン
シエル

神戸・三宮、さんプラザ2・3F
センタープラザ3F
営業時間 am 11:00—pm 8:00
PHONE—078・332・1698

FASHION PARK

MACのお客様
岩崎嘉秀さん
美女平一朗さん

MACオリジナル商品

右／ジャケット	¥43,000
パンツ	¥18,000
左／ジャケット	¥39,500
パンツ	¥19,500

MAC
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22／SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC	SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
THE BLAZER SHOP MAC	TOR-ROAD 078-391-0896
DOLCE MAC	SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
FESTA MAC	HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
BENETTON MAC	HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
FUJIIDAIMARU MAC	KYOTO FUJIIDAIMARU 2F 075-211-0857
SUNVIOLA MAC	TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
PLENTY MAC	SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

KONRON CAFE にて

□わたしの意見

神戸を超近代的都市に

石井　一
〈国土庁長官〉

国土行政というのは、歴史的、地理的条件により世界各国で違っています。我が国の場合、島国であり山も多いですが、そんな中で世界に冠たる工業国家、経済大国を形成している訳です。我が国における最も優れた資源は我々国民です。反対に最も乏しいのが土地なんです。国土庁長官という私の仕事は、その優れたものと乏しいものをどう有効的に結びつけて国土の均衡ある発展を成し遂げてゆくかということになります。仕事を始めてみるとかなり難しい問題が多いんですが、と同時に意欲的に取り組める仕事でもあります。格好良く言いますと、真っ白な画用紙を与えられて、色鉛筆を持ってデザイン画を書いてゆく、というような心境ですね。

神戸という都市はかなり個性的な街だと思います。従来の社会資本の集積の上に新しいアイデアを加えて、アメリカやヨーロッパの持ち味と日本独特の持ち味を合わせた感じで、日本中から注目される街になってきています。さらに二十一世紀に向けて神戸の持っている国際的な雰囲気や情報都市としての役割、あるいは、情緒的、個性的な雰囲気を集積した形をうまくまとめあげ、日本一の近代的な住みやすい街にしていきたいと思っています。これは単に地元に貢献するといったことだけではなく、もっと大きな観点からもそう考えています。その大きな目玉の一つが、私がかねてより主張していた神戸空港です。来年中には是非メドをつけてＴＡＫＥ－ＯＦＦ（政治的な離陸とでも言いましょうか）できるような状況を固めていきたいと思っています。

しかし神戸のエゴだけでは前に進みませんから、大阪や京都などの近隣都市との話し合いや、中央の行政にも手を入れなければならないと思っています。

『神戸が世界の窓口である』そういう超近代的都市となるような構想を実現するためには私も最大限の努力をしたいと思います。

二十一世紀に向け、神戸を最も優れた国際文化都市にするために、大胆なデザインを試みたいですね。（談）

ゴージャスで華やか
〈カドリール〉
新発売

シモン
ラングド・シャ
エトランゼ
スリム
チーズ・パイ
キャンディ

ロイヤルギフト　カドリール　¥2,000 ¥3,000

北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

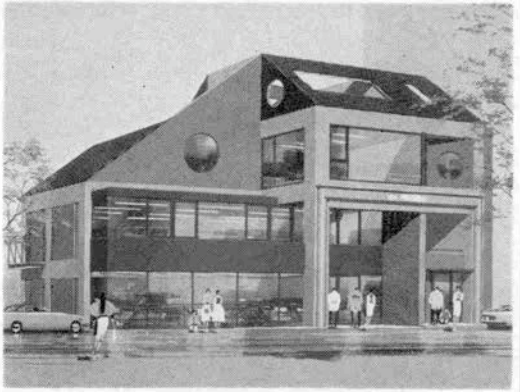
女性のための オープンスペース

9月より、柿沼産婦人科は阪神芦屋駅前に生まれ変ってオープンしました。新しい感覚で女性のあらゆる悩みにお応え致します。どうぞお気軽にご相談下さい。

★健保適用

芦屋 柿沼産婦人科

産婦人科・内科（女性専科）



阪神芦屋駅北へ1分
芦屋警察署東隣り
☎（0797）31—1234
（FAX兼用）

随想三題

〝魅力人〟井植歳男氏の回想

山崎　進
〈ラジオ関西社長〉

偉大な創業者と呼ばれる人は多いが、その中でも、三洋電機を起こした井植歳男氏（故人）は、稀に見る器量人であり、なにより〝魅力人〟であったと回想する人が多い。

私個人と井植さんのお付き合いは、「一土会」結成時の昭和42年7月から、亡くなられまでのわずか2年間に過ぎない。しかし、その短い期間に、望外なほどに濃密に、その人間味豊かな、大きな人柄に接する機会を得た。

マスコミ人という職業柄、私も多くの人物に出会ってきたが、終生忘れえぬ〝魅力人〟の一人が、この井植さんである。

前述した「一土会」とは、当時私が事務局を任されていた「郷土振興調査会」という兵庫県の地域社会づくりの機関が、新たに神戸の政財界のトップ14人を集めて結成した朝食会組織である。

この時、井植さんにお誘いにあがったのが、出会いの最初であり、井植さん自身にとっても、これが神戸財界入りのきっかけになったと記憶している。

その後の井植さんは、この賢人グループの会合に極めて熱心で、持ち前の明るさと積極的な発言でいつも会議に新風を吹き込んでおられた。私は神戸新聞社の編集局に籍を置きながら地域社会の任意団体に出向するという、いわば二足のワラジをはき分ける役柄だったが、そんな私のどこが気に入られたのか、何かというと私を呼び出し、架橋や空港問題をはじめとするさまざまのプロジェクトについて、よく意見を聞かれた。

「一土会」例会

「一土会」発足の年の秋、井植さんは、メンバー全員を郷里の淡路島に招待された。

その日の井植さんの献身的なサービスぶりは、見事というほかない。船中、車中、片時もマイクを放さず、喜々としてガイド役を務められ、緑町の別荘には花隈の芸者衆を総揚げで待機させるという、手厚い接待であった。そして、それよりも驚き入ったことは、この日帰りプログラムを実施するに当たっての徹底した事前準備ぶりであった。

ある日、私は大磯の船着き場に呼び出された。そこから、井植さんと二人きりでマイクロバスに乗り、当日のコースを試走、みやげものの選別から料理の吟味まで、すべてを付き合わされた。サービスとは何か、を身を以て教えられた一日となった。まだ若かった日の忘れえぬ思い出である。

■井植記念会創立20周年記念式典
日時／10月17日　16時～20時
場所／オリエンタルホテル

随想三題

同窓会

三浦 真厳
〈大本山須磨寺塔頭 正覚院 副住職〉

「夏の思い出」を口ずさみたくなる八月、恐らく全国各地で今年も盛大に同窓会が開かれていると思う。小・中・高・大、それぞれ特色があっておもしろい。中でも「オモロイ」（神戸の方言）のは小学校だ。

卒業以来、恩師が亡くなられてからも、四十数年ずっと継続している大へん親密度の高い組単位の同窓会もあれば、卒業後はじめて出席した者もいる学年単位の同窓会や、又、学校単位の同窓会総会等、それぞれの特殊性や地域性もあって、実に多種多様である。

私の小学校、母校は、神戸市立西須磨国民学校で、平成五年に百周年を迎える。明治・大正・昭和と激動する日本の変遷を、母校はどのような思いで見守ってくれたであろうか。たまたま私達の学年単位の同窓会は、五年ぶりに（四回目）八月二十七日二時より、おりしも台風十七号接近で、兵庫県南部にも、早朝より各種注意報・警報が出されていた、そのさ中に、神戸市の中心部を一望できる、レストラン北野クラブで行われた。

新幹線に若干の乱れはあったものの、関東地方からの参加者数名を含めて、ほぼ予定通り男女合せて七十数名の同期生が会した。残念なことは、当日御招待申し上げた、恩師坂部公平先生が淡路にお住いなので、欠航のため御出席いただけなかった。会長（光証券大谷巌氏）・司会者（松竹貿易ＫＫ社長村上茂雄氏）・世話人等々の打合せよろしく、会は定刻前のフリー・ドリンクから懐旧談を交えて和やかにすべり出した。

北野クラブで開かれた西須磨小学校同窓会

当誌（月刊神戸っ子）の小泉副編集長も、幼少期を須磨で過されたご縁と、山手学園同窓会長砂原規子女史との関係で、写真家同道で出席いただいた。

四十五年前の昭和十九年三月に卒業したわれわれは、あと二・三年で還暦を迎える五十七・八才で、きまって話題になるのは食糧難と神戸大空襲、そして終戦前後の波乱に満ちた時代のことどもだ。単なる懐古にとどまらず、所謂戦争体験を始めとする様々な出来事を、正確に次の世代に語り継いでいかねばならない。

わたくしたちの母校からは現在活躍中の国会議員が四名も選出されている（正森成二・土井たか子・石井一・石井一二〈敬称略・年次順〉）。この様な小学校は全国的にも珍しいと思う。四年後の政局如何んに関わらず、超党派でぜひ、母校の百周年記念式典にはご参加頂けるものと、今から楽しみにしている。

随想三題

あなたは何フラッツ？

菊地由紘
〈ベアーズ パートナーシップ㈱ 代表取締役社長〉

アメリカにFLYERS（フライヤーズ）という新しい世代の若者たちがいる。これは、Fun Loving Youth En Route to Success. 成功を目指しつつも楽しみを愛する若者たちという意味で、頭文字を繋ぐとFLYERSになる。日本でいえばさしずめ新人類と呼ばれる若者たちの一部がこれにあたるのかもしれない。彼等が人生に目標を持ち、それなりにこだわりのあるライフスタイルを楽しむという生き方は透明で、賢明ではないかと思う。しかし、彼等が単にこの世的な地位とか財産を得たいという形だけの成功を目指し、外からの情報のみに頼った型どおりの楽しみ方だけを愛するならなんとも淋しい思いがする。私は成功という意味の中に自分でしか花を咲かすことができない、その人自身に託された人生の目的を目指して気高く生きてゆくということもつけ加えてほしい。

人間は誰もが願いを持って生きていると思う。そして、多くの人はそれが何だかよくわからないがもしかすると人に応えてゆきたい、それが願いの原点であり、人生の目的かもしれない。けれども人に応えてゆくということは、人に何かをしてあげるということではなく、人生における善き対話者として（けっして仲良し同士のおしゃべりではなく）深く関わってゆくということではないだろうか。私は人は対話を原型としており、人類は対話を目的として生れて来たのではないかとすら思っている。

真に人生を楽しむ（手前が菊地さん）

ところで、近頃若者が楽しめる溜り場は極めて多いが、大人たち、とくに熟年層のいい女やいい男が楽しめる場というのが意外と少ない。そこで私はこの不幸な善き大人たちが真に人生を楽しめるためにFLYERSに対してFLAT（フラッツ）Sという新しき人々を是非この世に認知させたい。これはFun Loving Adults Towards Success. 成功を目指しつつも楽しみを愛する大人たちのことである。男ならばTVでよく見うけられるワールドサクセスストーリーに登場する人物を男のロマンとして憧れ、それを目指してもよし。女ならば尊い主婦業に専念してもよし、また、好きな仕事に生きてもよし。いずれにしてもその道で成功を目指しつつ、善き対話者として懸命に生きながら、一方では幅広い趣味を持ち人生を豊かにするために内なるエネルギーを全開して生きてゆく善き大人たちの集まり。昨今、血液型での品定めが大流行りだが、それからゆくと私はAフラッツ、あなたは何フラッツであろうか？

地域文化論

〈その122〉

よかトピア（アジア・太平洋博覧会）での市民参加の場面

水谷　顕介〈都市計画家・建築家〉

仮設の色づけにあけくれるこの種の博覧会そのものには本来あまり興味がないが、今回は、福岡の地での〝アジア・太平洋〟という身近かなテーマともつながって、いくつかの体験をした。

1つは「ブータンプロジェクト'89」と名づけられて、市民グループによって実現したブータンパビリオンの運動である。実際に活動したメンバーや世話役の人々のチームワークの成果はすばらしかった。市民参加の会員が607名、団体会員44団体、そして会費＋事業（切手など物品販売）＋受託＋おさいせんなどで収入がほぼ3千万円、支出2千3百万円と、財政面でも成功させた。時折会員に送られてくる「龍国通信（BHUTAN LETTERS）」も通巻8号、毎回プロジェクトの進行や会員状況をていねいに説明していて気持よい連絡だった。次は「アジア・太平洋子供会議イン福岡」―7月28日から8月2日のアジアの子供達のホームステイである。福岡青年会議所が実行部隊となって、アジア・太平洋諸国から35カ国1千人（実数、子供達1千32人、付添の大人106人）を呼ぶというとほうもない計画で、外務省など有識者はこの過大さにかなり反対したらしい。福岡市を中心に近隣市町村の家庭が協力して、大きなトラブルもなく子供達は様々な福岡の思い出をもって楽しそうに帰っていった。

海の中道公園での合同キャンプに参加した西サモアと能古島の子供たち

私達、能古島の仲間達も8世帯が10人の西サモアの子供達をあずかった。食事のこと、お風呂のこと、ホームシック対策など、いろいろな経験をしたが、実に多彩でドラマチックといえる毎日だった。国際電話がかかってきたよ、絵葉書がきたよ、数年後には西サモアへ皆で行こうね、など忘れがたい島の話題としてつづいている。

もう1つは、博覧会開催地であった埋立地の人工海浜2.5KM環境整備運動として起った「はかた夢松原の会」という松並木づくりへの市民運動である。埋立地以前の百地浜の松並木再生や隣接して博多湾に残る立派な生の松原にならっての昭和の松原づくりに賛同して福岡市ではかつてないひろがりで運動がもり上った。会員は1188 1人（'89・8・1現在）植樹に何回かたずさわったり、シンポジウムを開いたり、唐津の虹の松原と松原掃除の相互交流をやったり、活動している。会場のにぎやかさで目立たなかったが、これからはかなり立派に育ってきつつある新しい松原そのものに、市民や来訪者の関心が向うだろう。

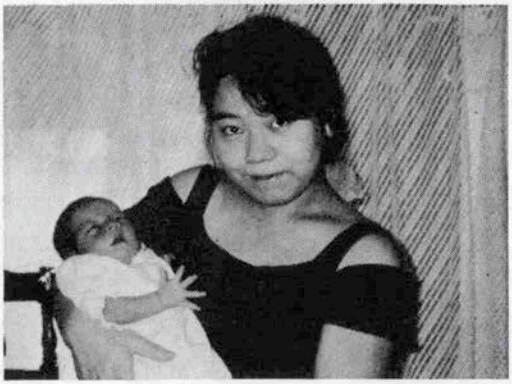
よかトピア自体は、予測入場者数700万人を上まわって、822万9399人と後半にはおおいににぎわった。

都市設計や建築家的立場でみると、横浜博の方がレベルが高く、よかトピアは素人的だが、一般の人々からみると展示物よりイベントに力を入れたよかトピアの方が面白かったのだろうか。また、会場のすぐ背後に住宅地がひろがっていて毎夜夕方からの散歩をかねて歩く。市民が出かけられた会場の立地条件にもよるのだろう。

私達、建築家仲間は、よかトピアに隣接して、実際の町並みを一部建設して見てもらうという住宅環境展や住宅地づくりへの市民参加を語りあう「住宅地サミット」に協力したが、来街者はほぼ10万人、町並み構成や住宅そのものに幅広い意見や評価をいただいた。

佐本産科

ママといっしょに



赤ちゃん：馬原 優治くん（平成元年7月12日生）
ママ：利恵さん　和歌山市在住
「優治へ—
強くて優しい思いやりのある人になって下さい。
—父・母」

★佐本産科・婦人科★

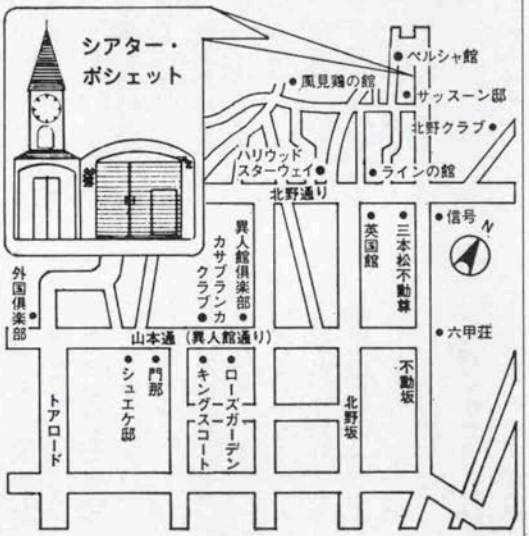
佐本　学
神戸市兵庫区中道通4—1—15
☎575—1024（病室☎576—9639）
市バス上沢4停南スグ

実験交流サロン

シアター・ポシェット

10月の公演

1日（日）ピアノとエレクトーンのコンサート 森崎 薫予　14：00〜
15日（日）音の舞 オータムコンサート 14：00〜（無料）
29日（日）異人館の町に愛の調べ No.11 チャリティコンサート　14：00〜（有料）



★シアター利用のご案内

●曜日、時間／土、日曜日（通常）AM10:00—PM8:00
●費用／ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
●付帯設備／グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
●お申し込み、お問い合わせ
そごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650　神戸市中央区三宮町1丁目5—1　住友銀行ビル6F
佐本小児歯科　佐本進　☎331—6302〜3

□エッセイ・9

ショッキングピンク

田中　千佳〈作家〉
カット／西村　功

人間誰でも、きれいになりたいという願望がある。しかし、持って生まれた顔とか体型はどうにもならない。

だからといって、チビ・ブス・デブが着飾ってはいけないという法律もない。その上、この頃、日本人は皆お金持ちだから、洋服くらい買う余裕はある。そこから悲劇は始まっている。

戦中、戦後に我慢した分を、今取り返すべく、オバタリアンは一途に派手に装う。何を隠そう、この私もピラピラ大好き人間である。

選ぶのは明るいきれいな色。飾りは多い方がいい。フリル、ピンタック、フレアにプリーツ、刺繍にアップリケ。何でも付いていればご機嫌である。

他人はお腹で笑っていても、

『あら、素敵、よくお似合いになるわ』

などと言ってくれるので、私は得意になっていた。

ところが、子供達は許してくれない。

『悪趣味』

『そんな恰好で学校に来るな』

『年を考えなさい』

と非難する。

特に娘は、私がピンクのレインコートでも着ようものなら、

『胸が悪くなる』

と睨みつけたりした。

私は素直だから、すぐに反省し、変身することにした。

以前から私は、大宅壮一氏のお嬢さん、大宅映子さんが好きだった。第一、背が高い、頭がいい、そして、いつも素敵なファッションなのだ。

色彩はアースカラーか白か黒。特定のDCブランドを決めているらしい。デザインはいつもシンプルで、一つの流れがある。彼女の審美眼がいいのも分るが、その店のファッションコーディネイターの腕もなかなかのものだと感服している。

又、彼女のヘアスタイルもいい。さり気ないが、手入れがよく行き届いている。甘えがない。白髪も自然に任せていて、顔とのバランスが程よくとれている。

ああいう風になりたいと思っていたのだ。私は百八十度の転換を試みた。大宅映子さんの真似をしてみた。結果は、子供達の言葉を借りると、

『気違いから、大分普通に近くなった』

のだが。

その頃、私の小説がTBSでドラマになったので、新年宴会に招待された。さて、どんな恰好をするべきか、それが問題だった。

場所は郷ひろみが結婚披露宴をした、あの新高輪プリンスホテル、飛天の間である。スターが綺羅星の如く並ぶであろう。ドラマの原作者としては、渋く知的に迫るか、はたまた、スターに張り合って豪華絢爛満艦飾で乗り込むべきか。私はハムレットのように、悩み抜いた。

相談してみても、夫は、

『好きにしたらいい。本人が気にする程、誰も見ていない』

と冷たい。

私は一人で考えて、映子風に知的な線でいくことにした。おとなしいドレスで、アクセサリーも控え目にした。ミーハーは止めて、教養高く見せようとしたのだ。

会場は着飾ったスターで一杯だった。隣りにタキシード姿の高橋英樹がいると思えば、向いに訪問着の竹下景子がいた。そんな中で、地味なオバサンなんか誰も見向きもしてくれない。

プロデューサーの石井ふく子さんに挨拶したかったのに、背の低い私は探すことも出来なかった。パーティでは個性的でなければならない。ただ地味にすればいいというものではないと思い知った。

それから暫くして、又、大きなパーティに出席することになった。今度は失敗すまい。私はショッキングピンクのボディコンドレスを着た。これはもう、目立つのなんのって、遠くからでも一目で分かる。私は孔雀が羽根を拡げたような気分だった。

近付いてきた悪友が言った。

『凄い色ねえ。この間、大屋政子さんのゴルフ場に行ったら、クラブハウスのソファが全部これと同じショッキングピンクなの。少しくたびれているところなんか、あなたにそっくりだったわ』

『放っといて。胸の線がきれいですねって賞めてくれた人もいるんだから』

私は強気だった。もう派手派手でいこう。知的で迫るのは柄ではない。一生、この線で押すことにした。

しかし、オオヤはオオヤでも、映子さんではなく、政子さんとの方に共通点があるとは、何だか複雑な気分である。

〈筆者紹介〉本名林陽子。朝鮮京城生まれ。戦後引き揚げて京都に住む。旧制同志社女専英文科卒。アメリカ系商社に就職。結婚、その後出産のため退社、以来専業主婦。「マイ・ブルー・ヘブン」で昭和六十年度中央公論女流文学新人賞を受賞。現在、東灘区在住。

美術夜話〈8〉

神戸の発展を追いかけて

川西祐三郎〈版画家〉

私は、世界の国から大小さまざまの船が出入するこの港まち神戸で生れ育ち、他所の住み心地を知らずに今日に至った。エキゾチックな街並みが、海と山とにはさまれた美しい風景に恵まれて、生活出来るのは何より幸わせである。

私は父が版画家であったので、八才ぐらいで物心がついた頃から常に父のそばに座って、真似ごとがしたくてならなかった。大切な道具や材料を使って叱られながら、木版画の作り方を覚えていった。私が小学校の五、六年生の頃、父は神戸百景の制作に没頭していた。強烈な色彩が好きであったから、エキゾチックな明るいこのまちを題材にした作品の制作へと誘い込まれたものと思われる。この百景が完成した昭和十一年には、神戸大丸の新館竣工記念展として開催された。

私はこのように、最も身近かに父を師として画業をスタートしたので、画風の影響を強く受けた。早くこの作風から脱皮せねばならないと、若い頃から心がけながらも、なかなか思うようにならなかった。こういう過程において、私も神戸の風景を題材にすれば、ますます二番煎じに拍車をかけると思い、神戸を敬遠した時代が長く続いた。

併し、昭和四十年には、父が亡くなり、画業を継がねばならないという責任感のようなものが心の底から湧いてきた。これを契機に今までの不勉強を反省し、心を入れ替え、初心にかえって版画の道へ再出発する決意を新たにした。

神戸の風景から遠ざかること久しかった私も、まちを歩くごとに美しい画材に強い刺戟を受けることが多いのと、まちの風景が新しく移り変わり、ところによっては昔の姿を偲ぶすべもない程の変化がみられた。港の沖には、想像だにされなかったポートアイランドが新天地として出現したり、六甲山脈を北に越えて市域が拡がるようになると、もはや画家として美しい風景いっぱいの神戸を避けて通ることは出来なくなった。ついに昭和四十六年ごろから神戸風景シリーズの制作にとり組んだ。

ところがそのうちに日本経済の高度成長が進むにつれて、まちには新しい建物や、立派な各種施設の出現が相次ぎ、風景は刻々と変りはじめた。新しく制作したつもりの作品がすぐ古い風景になってしまう有様であった。こうなっては意地でも新天地を追いかけたくなり、ファイトが湧いてきた。こうして無我夢中で、新景を求めて駆けめぐっている間に、ふと気がつけば頑張った作品の

数は百点を超えていた。

年号も平成元年となり、神戸市も市政百年を迎え、市民が自慢出来る新市庁舎もひときわ目立って竣工した。この機会にひろく市民の皆さんに郷土の作品をご覧いただきたいとの念願が叶って、幸いにも九月二十九日から十一月五日まで神戸市主催で新市庁舎二階の市民ギャラリーで展覧会を開催していただくことになった。私としては過去最大のスケールで、こんなにうれしいことはなく、関係の方々には感謝の気持でいっぱいである。

最近作の中には、新庁舎は勿論、ホテルオークラや新オリエンタルホテルの見えるものや、六甲大橋、メリケンパークなどもある。

父の神戸百景は、あらかじめ計画的に地域別に場所を選定して制作したものであったから、場所の重複もなく、また作品の大きさも揃っていた。これに対し私の神戸シリーズはただ思うに任せて作ったので、作品の大きさも揃っていないし、場所的にもかなりの重複がある。しかしとにかく百点を数えたことはふりかえって感激ひとしおである。

一方、折角百点揃った作品をまとめて出版物とし、沢山の人々にいつまでも観賞していただきたいという念願も、神戸新聞社の企画制作、兵庫ワイドサービスの発売で実現することになった。

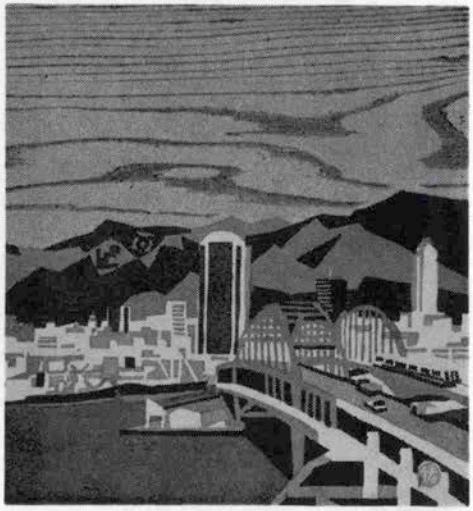
このように一生懸命努力したことが、周囲のご厚意に恵まれて、思いがけず夢が叶い、身に余る光栄である。

父は神戸のまちをこよなく愛好して半世紀の足跡を残したが、引継いだ私も、今後ますます神戸シリーズを続け、神戸の発展に遅れることなく、画業の勉強に全力をつくしたい。

■川西祐三郎版画集「神戸100景」(¥50、000)が限定販売されます。
お申込みは☎251—1122「神戸100景」係まで。

制作中の川西氏

「神戸新市庁舎」



「港への誘い」